

企業名

建設業

中小企業

有限会社ゼムケンサービス

女性の発想を活かした女性建築デザインチームの活躍により、5年で売上・利益とも倍増を実現

Point

- ▶ 時間的制約のある女性にも、建築の世界で活躍の機会を与えたいというトップの思いが、女性活用のきっかけに
- ▶ 建築設計の分野では珍しいワークシェアリングに取り組み、試行錯誤しながら、その方法確立
- ▶ 仕事の共有により、時間的制約のある女性でも活躍できる機会が創出され、現在は様々なライフステージに立つ女性が活躍中
- ▶ 大きな“家族”のように社員が支え合う環境が、家庭や家族に関する社員の経験を深め、家を設計する際の顧客ニーズの理解に貢献
- ▶ 女性のユニークな発想や洗練された感覚による店舗の設計・デザインが注目を集め、系列店すべてを任されるケースも
- ▶ 女性視点の強調戦略により売上倍増と高付

ゼムケンサービスの経営理念体系（抜粋）

〇ビジョン

私たちは女性の喜び、生きがいを創る日本一のチームです。

ワークライフバランスを実践し、卓越した技術との連携で、「女性力を現場力」にします。

建築士とデザイナーと現場監督が活躍できる舞台をつくり、子育て中の親と、独身と、子育てがいち段落した親が助け合う永続するチームワークをおこないます。

一人ひとりがニッポンの空に輝く天の川となり、世界に翔（はばた）き、国家の発展に貢献します。

Data

◎企業概要

会社設立年	1993年	資本金	20百万円
本社所在地	福岡県北九州市小倉北区片野3丁目7番4号		
事業概要	一般建設業、一級建築事務所 住宅・店舗の設計・施工、デザイン、コンサルティング		
売上高	1.2億円（2013年7月期）		

◎従業員の状況（単体）

総従業員数	8名（うち非正規0名）
属性ごとの人数等	【女性】6名（うち非正規0名）、女性管理職比率 50.0%
正規従業員の平均勤続年数	4.2年（男性 7.8年、女性 3.5年）

ダイバーシティ経営の 背景とねらい

時間的制約のある女性にも活躍の舞台を

ゼムケンサービスは、北九州市を中心に住宅や店舗の設計・デザインを手がける建築事務所である。現在の8名の社員のうち6名が女性であり、そのうち4名の女性は子育てをしながら働いている。6名の女性のうち3名は一級建築士の資格を持ち、設計のほか、営業や現場監督なども担当する。一級建築士のほかにも、二級建築士や女性デザイナーも活躍している。

建築業界は、今でも女人禁制の考え方が根強く残る男性多数の業界である。こうした業界の中では、特に家事や子育てを担い、時間的制約のある女性が建築士などのプロフェッショナルとして活躍できる舞台は少なかった。しかし、同社の籠田代表は、自身が育児と仕事の両立に試行錯誤する中で、育児中の女性にも活躍できるチャンスを与えたいと考え、これが同社における女性活躍の発端となった。これを機に同社は、試験的に2名の女性に1つの業務を任せ、助け合いながら仕事を進める“ワークシェアリング”に挑戦。その後、様々な困難を乗り越えながら、仕事を共有するユニークな方法が整備され、時間的制約のある女性でも活躍できる職場環境が実現された。現在は、様々なライフステージに立つ6名の女性が活躍している。

北九州発・女性建築デザインチームの大躍進

同社に集う女性建築士やデザイナーが、2年前にチームを立ち上げ、1年前から「JKDT 女性建築デザインチーム」と名づけて活動を始めたところ、女性の視点を活かした提案やデザインが地域で高い評価を受け、売上が倍増する勢いで伸び始めた。「家づくり、店づくり、まちづくり、そして幸せづくり」を掲げる女性建築デザインチームの活躍は、様々なところで注目を集めるようになり、現在は新聞やテレビ等でまさに“引っ張りだこ”の状態となっている。同社の実績は全国区で認められるに至り、同社の代表である女性建築士・籠田氏は、2013年に内閣府の「女性のチャレンジ賞」を受賞した。これは建築業界における初の受賞となり、業界にも大きなインパクトを与えている。

ダイバーシティ推進のための具体的 取り組み

設計の分野では珍しいワークシェアリング

同社では、設計やデザインの分野では非常に珍しいワークシェアリングを実施している。これは、一人の担当者がすべての仕事を担うのではなく、チームとして複数の担当者が一つの仕事を共有しながら仕事を進める方法である。建築業界における設計業務は、一般的に建築士などの専門家が自らの責任で行うことが多い。しかし、時間的制約のある女性建築士にとっては、すべての責任を一人で担うことが難しい場合もある。そのため、同社では、時間的制約のある女性同士で補完し合い、チーム全体として情報を共有しながら仕事を進める方法を取っている。

情報共有の方法については、常に試行錯誤を重ねてきた。現在はメールリストのほか、WEB上で図面を共有したり、Facebookで予定を共有したりしながら、情報を共有している。

建築の分野において建築士が設計した成果物は、その建築士個人の実績であり、一つの“作品”のような形でみられることもある。しかし、同社でチームとして成果をあげる上で、こうした価値観やプライドは障害となる。お互いに専門家として意見が衝突することもあるが、同社では、お客様のためにチームで協力して良いものを生み出すことを目標として掲げ、全体の目標に向かって力を合わせるという考え方が根づいている。このように、成果を自分だけの手柄にせず、チームのものとしてとらえることができるという点は、女性の強みの一つであるともいえる。

大きな家族として支え合う社員

時間的制約を持つ女性同士がお互いに助け合っているのは、仕事だけではない。同社で活躍する女性同士は、仕事以外でも協力し合う関係にある。例えば、学校が終わった子どもたちは、それぞれの自宅ではなく同社のオフィスに帰ってくる。おやつも出されるこのオフィスで、子どもたちは他の子どもと遊びながら母親の終業を待ち、仕事が終わると一緒に自宅に帰る。オフィスの一角は託児所のようにっており、子どもたちはここで楽しく夕方の時間を過ごす。

同社に集うメンバーは、仕事以外でも助け合う大きな家族のような関係を築いており、仕事の悩みに限らずプライベートな悩みもオープンに相談しあう。時間的制約を持つ女性同士が一緒に仕事を進める上では、相手が置かれている状況を可能な限り知っておくことが望ましいという配慮がその背景にある。子どもの状況や家族の病気など、相手の事情を把握していれば、相手を理解した上で協業も前向きに行えるようになるからである。

また、住宅や店舗を設計する仕事において、家族や家庭という視点は欠かすことができないものである。大きな家族として社員が支え合う同社の環境は、独身の社員にとっても、視野を広げるとともに、お客様の気持ちをより深く理解する上でプラスになっている。

籠田代表は、住宅の設計やデザインという仕事をする上で、日常生活は発想の源であるという。実際に自分自身の生活において得られた気づきが、お客様に喜ばれる設計につながることも多い。このように考えると、自分自身の生活を充実させることは、設計やデザインの仕事においては特に大きなプラスに働く。同社の女性社員が仕事とともに自分自身の生活も大切にしていることは、同社の業績にもつながっているのである。

一人ひとりの実力を高めるための工夫

少数精鋭の同社では、一人ひとりの実力が企業の実績に直結する。こうした考えに基づき、同社では教育研修にも力を入れてきた。現在は一人あたり年間約40万円の費用を人材育成に投資している。

具体的には、原則として毎月研修の時間を確保し、全員が経営やマーケティングに関する知識を習得する。店舗等の設計やデザインの提案は、顧客の事業内容や経営戦略を踏まえて行うことも多い。顧客の理念や要望を深く汲み取った質の高い提案を行うためには、経営者の目線を理解することも重要である。

また、多忙な女性が家事や業務の合間にスキルアップできるようにという配慮から、同社ではオリジナルの社員手帳を作成し、社員に配布している。この手帳には、企業理念のほか、業務の基礎知識や建築分野の法律改正の最新動向など、豊富な情報が盛り込まれている。育児休業で業務から離れている社員も、この手帳を見れば、業務の基本や最新動向

を効率的に把握し、スムーズに職場復帰することができる。この手帳には、自分自身の10年間の予定や目標も書き込めるようになっており、人生計画を立てたり、キャリアアップの目標を明確にするために活用することもできる。このような人材育成やスキルアップに関する配慮も、同社の実績を支える大きな力になっている。

ダイバーシティ推進による 経営効果

女性のユニークな発想による店舗が注目を集める

同社による女性の視点や感性を取り入れた住宅や店舗は、多くのお客様から高い評価を受けている。

例えば、女性スタッフが多い旅行代理店では、働く女性の心理に配慮したカウンターが喜ばれている。女性スタッフが座る接客カウンターは弓のような形になっており、弓のカーブの外側にスタッフが弧を描くような形で座るようになっている。直線的なカウンターでは離れたスタッフの様子はあまり分からないが、弧を描いた形で座ると、他のスタッフやお客様の様子なども自然と目に入り、女性同士が連帯感を持って安心して仕事ができるほか、自然な気配りやフォローもしやすい。この弓形のカウンターは、一般的な直線状のカウンターよりも広いスペースを使うため、効率を重視する男性建築士には思いつきにくいですが、女性建築士が同じ働く女性としてスタッフの心理を深く分析し、そのニーズに応えることを重視した結果、女性に喜ばれる新しいオフィスが完成した。

また、同社オフィスの近くに立地する不動産店は、入口を入ると円形の待合ホールがあり、その待合ホールを何重にも囲むように社員デスクが配置されている。これは、待合ホールのお客様の気持ちを社員がしっかりと受け止め、その情報を奥の社員にまで波紋のように伝えていくという同店のサービス精神を体現したものである。お客様のニーズをしっかりと聞き取るという意味を込めて、待合ホールに置かれたソファも耳の形になっている。

顧客に対して「どこまでもやさしく」というコンセプトを掲げたこの不動産店の設計は、お客様に大きな感動を与え、これも同社が誇る実績の一つとなっている。

同社が設計・デザインを手がけた北九州市内の不動産店



ほかにも、「つい女性が立ち寄りたくなるお店」をコンセプトとして設計された北九州市内の洋菓子店では、多くの女性が憧れる南仏プロヴァンス風の白いお菓子の家をイメージしたデザインを実現した。店内は、同店のメインの商品である焼き菓子・バウムクーヘンの焼き色を中心として、やや濃い小麦色までのグラデーションを取り入れ、店の内装が商品の色合いと調和するようデザインされている。床・壁・天井のほか、ショーケースやテーブルに至るまで曲線が随所に取り入れられ、焼き菓子の柔らかさが強調されている。開店時の店内には焼き立てのバウムクーヘンの香りが漂うことまでも計算された設計となっており、女性の憧れが反映された、まさに女性が立ち寄ってしまう繁盛店として注目を集めている。

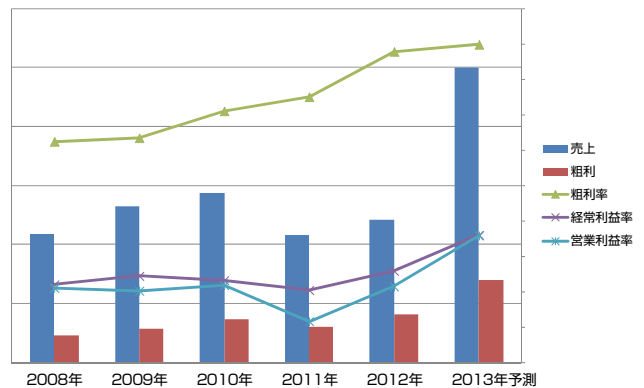
同社が設計・デザインを手がけた北九州市内の洋菓子店



女性視点の強調戦略による売上倍増と利益率向上

女性の視点や感性を重視したユニークな発想に基づく住宅や店舗は、地域において高く評価され、同社事業は急速に拡大している。女性顧客が多い菓子店や美容院では特に需要が高く、系列店をすべて任されるケースも出てきた。この結果、昨年度から今

過去5年間の売上・利益の推移と今期の見込み



年度にかけて売上が倍増する見込みとなっており、同社事業は過去最大の規模へと発展を遂げつつある。

売上の増加とともに注目されるのは、利益率の向上である。1993年の設立当初、同社は公共工事を請け負う業務を中心に手がけていたが、2000年代の中頃から、戦略的により付加価値が高い住宅や店舗の設計・デザイン業務の比重を高めようと努力を重ねてきた。「JKDT 女性建築デザインチーム」の発足は、こうした高付加価値化戦略の一環でもあったが、この戦略が功を奏し、利益率向上による経営体質の強化という大きな目標も達成されつつある。

もっと多くの女性に活躍の舞台を

「JKDT 女性建築デザインチーム」は同社の女性社員によるチームであるが、籠田代表はこれを“Japanese Knowledge Diamond Team”と読み替え、社外的女性専門家も入れた新たなチームをつくることを計画している。家事や育児などの時間的制約により、大好きなデザイン仕事や設計の仕事をあきらめている女性に対して活躍の舞台を提供したいという代表の思いは、自社を超えてさらに広がりつつある。籠田代表は、この新しい取り組みによって日本国内に50人の女性スターを生み出したいと語る。ここには、女性経営者として業務実績をあげるだけでなく、建築に携わる多くの女性に夢とチャンスを与えたいという籠田代表の強い思いがうかがえる。

また、今年、アジアで活躍する女性による「アジア女性会議」にパネリストとして参加したところ、この会議も好評であったという。北九州から始まった女性チームの活躍は、日本国内から海外へと、大きく広がる兆しを見せている。